

●発行日：2015年10月17日（土）

〒661-0035 兵庫県尼崎市武庫之荘3-19-3 TEL 06-4962-5876 FAX 06-4962-5877 e-mail info@gakurin.co.jp

||||| 発行：教材出版 学林舎



学習教育の行き先

もう一步踏み込んだ目的意識

学習教育の行き先

数学的な表現力

表 現力育成が今後の学習教育において、キーワードのひとつになります。表現力をどう育てるのか？が学習現場では課題になっています。とりわけ、数学（算数）を学習していく中で、表現力を身につけるとはどういうことでしょうか？広島大学名誉教授岡田樟雄先生は「『数学的な表現力』について考える」の中で「式を読む力」「式で表す力」「式を多様に見る力」、この3つの力を育成することが「数学的な表現力」を身につけることの基盤になることを述べています。また「論証」を育成することが「数学的な表現力」育成の大きな課題であることも述べています。

私たちの多くは、算数、数学は言語学習とはかけ離れた存在であると考えていますが、算数、数学も言語のひとつだと私は考えています。つまり、算数、数学の学力が伸びているということは、言語力＝表現力も伸びていると。しかし、学習教育、現場において、その実感は皆無に等しい状況がつづいているといえます。

その理由は「式を読む力」「式で表す力」「式を多様に見る力」の育成で学習が止まっているからです。そして、「論証」を学習することが体系化（カリキュラム化）されていないからです。

こういった状況を打開すべく、学校においては、反転授業を導入することにより、「論証」を学習できる時間をつくり出そうと考えています。ただ、「論証」を体系化し学習指導するには、核となる教科書、教材が必要といえます。学林舎では「論証」に特化した教材を提案できればと考えています。（北岡）

理 科学学習の強化は、政府の政策を見ても大きな柱のひとつになっています。学習教育の現場においても、この10年で理科教育は、理科というより science（科学）に進化しています。民間の学習レベルにおいては、実験学習専門の塾がいくつも誕生し、家庭でも手軽におこなえる様々な実験教材が増えています。課題としては、理科がscience に進化していく中で、scienceを学習することによって、どう社会につながっていくのかというところが、小・中学校レベルにおいてもう一歩踏み込めていないと考えています。これは、理科のみならず全ての科目学習にいえることですが、学習＝学ぶことによって、社会とどうつながっていくのかを小・中学校レベルにおいて明確にすることが子どもたちの学習意欲を向上させるひとつだと私は考えています。20年ほど前「算数、何で勉強するの？」と先生が生徒に問われました。この質問に多くの先生、大人は頭を悩ませました。

あれから20年、文部科学省は「表現力育成」をひとつの柱に改革を2020年に向けて進めています。理科においても「表現力育成」は必須です。表現力を育てるために、もう一步踏み込んだ学習はもちろんのこと、もう一步踏み込んだ目的意識の明確化が必要です。（北岡）

Yahoo P P 広告で生徒募集一塾・教室運営サポート

生徒募集は、塾・教室運営で大きな課題のひとつです。ここ数年、チラシでの集客からホームページでの集客に媒体は変わりつつあります。しかし、ホームページを作成しただけでは集客はできません。より多くの方に閲覧していただくことによって、はじめて集客は可能になります。学林舎では、Yahoo P P 広告を使つての生徒募集を推奨しています。詳細は、学林舎 北岡までお問い合わせください。低予算（100円～）から可能です。



2016年 新刊

2015年12月先行販売予定

成長する思考力GTシリーズ国語

文法力特化

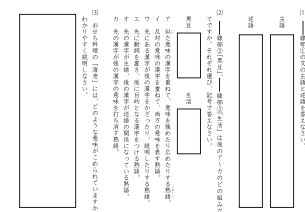
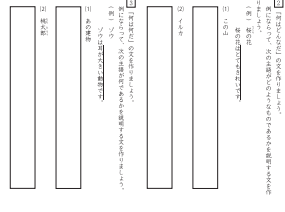
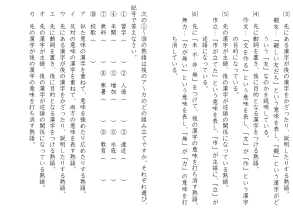
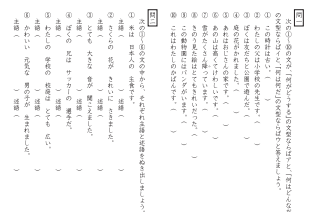
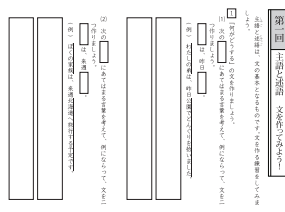
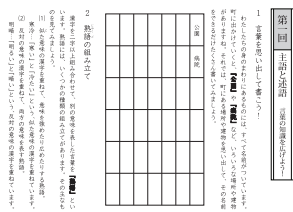
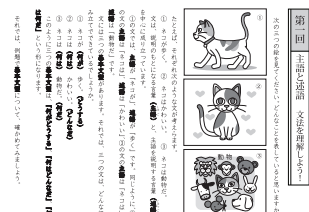
1. 文法を理解しよう！
2. 言葉の知識を広げよう！
3. 文を作ってみよう！
4. 理解をたしかめよう！

小学校でおさえたい
おきたい文法事項を
4つの視点で学習！

版型 ● A 4 版
 頁数 ● 32 頁
 価格 ● 849 円 + 税
 学年 ● 小学校～中学校
 付属 ● 解答・解説

目次

第1回	主語と述語	第6回	助動詞
第2回	修飾語	第7回	敬語 1
第3回	品詞の種類	第8回	敬語 2
第4回	名詞・動詞	第9回	表現技法 1
第5回	連体詞・接続詞	第10回	表現技法 2



文法を理解しよう！

各回のテーマである文法を学ぶページです。各回の文法に関する説明を読み、問題を解いて理解を確認します。

○学習目安時間
10 分～15 分

言葉の知識を広げよう！

「言葉集め」のほか、熟語の組み立て・同義語・反意語・四字熟語・同音異義語・同訓異字・慣用句など、言葉の知識を深めるための問題を集めています。

○学習目安時間
15 分～20 分

文を作ってみよう！

テーマとなっている文法を中心に、短文やまとまりのある文を書く、作文力を養成するコーナーです。

○学習目安時間
10 分～15 分

理解をたしかめよう！

各回で習った文法や言葉の知識を中心に、長文問題を解いていきます。

○学習目安時間
10 分～15 分

国語を 考えてみる

文／学林舎国語顧問 森本 秀俊

ああ、素晴らしき哉、日本語⑱ - 敬語の輝き

前 回は国文法についてお話をさせていただきました。今回の話題は敬語です。

私事ながら、私は合気道で長く子どもたちを指導しています。たたみがしきつめた広い道場は、子どもがさわぐにはもってこいの場所です。稽古が始まる前は、ちっちゃい人たちがキャッキャッとしゃぎまわっています。しかし、武道ですから、稽古のときはそんな子たちをギュッとひきしめなければなりません。ところが稽古前にはしゃいで興奮している子どもたちを落ち着かせることは簡単ではありません。必ずといっていいほど、ハイテンションのまま稽古に入り、周りの子どもたちをまきこんで、しゃべったりふざけたりする輩が出てきます。小学校の1年生のときから稽古を始め、今、中学3年生になっているYくんもまさしくそんな子でした。「口から先に生まれてきた」とは、この子のためにあるような言葉です。小学生のころ、Yくんは稽古中にしゃべりまくるものだから、毎回のようにはかりつけていました。ところが、子どもというものは、成長するものです。中学校に入ってしばらくしてからのことでした。Yくんが私に向かって、「先生、用事があるので、来週の稽古を休ませていただきます」と言ったのです。

突然の敬語でした。それまではどんな相手にもタメ口を聞いて、がちゃがちゃと騒いでいたYくんが敬語を使ったのです。とたんに、彼が立派な武道家に見えたのだから不思議なものです。敬語には、そのような力があります。

日本語は、世界の言語の中でも、最も敬語が発達した言語であると言われています。それだけに、敬語を覚えてしっかり使い分けるのには、かなり苦労します。

ご存知のように、日本語の敬語には、尊敬語、謙譲語、丁寧語の3つの種類があります。敬語は小学校で学び、中学受験にもよく出されますが、子どもたちにとってやっかいなのは、尊敬語と謙譲語の使い分け、特に、尊敬語や謙譲語で使われる特別な言葉でしょう。たとえば、「言う」の尊敬語は「おっしゃる」で、謙譲語は「申す」です。「行く」の尊敬語は「いらっしゃる」で、謙譲語は「うかがう」です。

さらに、自分の家族に関することには、謙譲語を使わなければならないということにとまどう子も多いようです。

「しばらくお待ちください。お父さんがまもなく来ます。」
相手が目上の人である場合、このような言い方は正しくありません。

「しばらくお待ちください。父がまもなく参ります。」
これが正しい敬語表現です。

大人でも誤りやすい敬語表現に「二重敬語」というものがあります。

「先生がおっしゃられていました。」
一見正しく見える表現ですが、この言葉づかいには、「言う」という1つの言葉に、「おっしゃる」と「～れる」という2つの敬語が使われていて間違いです。

「先生がおっしゃっていました。」
正しくは、こう言わなければなりません。

先ほどのYくんの例のように、敬語を正しく使うことができる人に対して、相手は敬意をいただきます。会話を円滑に進めるために、相手を気づかいながら、必要な場面では敬語を使う。これは日本人のコミュニケーション文化の大切な一面だと思います。

ああ、素晴らしき哉、日本語。(つづく)

算数・数学から見える世界

文／学林舎算数・数学顧問 深見 和孝

前回のコラムで、学林舎の「単元別テキスト」という教材について書きました。今回のコラムでも、この教材について書いてみようかと思います。

はじめに、「単元別テキスト」について簡単に説明しますと、この教材は中学で学ぶ数学を単元ごとに分冊(1学年に7冊程度)にしたもので、とても個性的な教材です。といいますのも、学習内容についての説明を読んだり問題を解いたりしながら、順を追って学べるように配慮されていますし、何より、生徒がスムーズに進められるように、つまずきやすいところを強調してくれています。

ふつう、数学の学習教材というものは、教科書を使うことを前提にして、ポイントを簡潔に述べ、様々な問題とその解法を中心に構成されています。特に、塾で使われる教材は、先生の要望に沿って授業で使いやすい教材を目指します。一方、「単元別テキスト」は、生徒が自力で進められることを目指しているのも、生徒がどこでつまずくのか、ということが一番に考えて作られた教材といえるでしょう。

つまり、ある先生いわく…

「授業で説明したり黒板に書いたりすることを、全部プリントに書いて生徒に配ったらどうだろう。そうすれば、授業でちゃんと説明できているか心配することもないし、チョークで服が汚れることもないから、楽でいいんじゃないか。」

説明することをあらかじめプリントにしておけば、ムダなく授業が進められそうですし、生徒にとってもノートを書く手間が省けて楽ちんです。「単元別テキスト」はそういう合理的な発想からできた教材じゃないかと思うのです。

「ムダ」といえば、昨日テレビで見たのですが、必要最小限のモノだけで生活する会社員の男性が紹介されていました。その方は食べるもの、着るもの、家電など生

活するのに必要なモノを最小限にとどめて、ガラ〜ンとした家での生活をエンジョイしているということなのです。そういう人たちを総称する造語もあるそうで、何と呼ぶかは忘れてしまいましたが、要はムダをなくすことを追い求めていく人たちのことのようにです。実は私もこのタイプに近いようで、その男性に共感を覚えしました。実際、私はアルバムなどのような思い出のモノは何も持っていませんし、私物を集めてもタタミ2畳あれば十分に納まりそうです。

何を言いたいのかといいますと、授業から「ムダ」と思えるものを省いてしまえば、どうなるのだろうと考えたわけです。黒板はもちろん、先生の説明は全部プリントにして…いや、プリントも紙のムダなので電子書籍のようにすれば、タブレット1つあれば授業ができそうです。

もちろん、ムダをなくして快感を得られる人がいれば、ムダであることを大切に思う人もいます。あるベテランの先生が、「こんなオッサンが何か一生懸命に話している姿を生徒に見せるのが授業や。」と話してくれたことがあります。「それってムダじゃないの？」と言っただけは身もフタもありません。また、「授業なんてただの儀式のようなものですね。」と話していた若手の先生もいました。また、生徒のほうの受けとり方も様々でしょう。前回のコラムで書いた「テキストをやるだけで教えてもらえないなら、塾に来る意味がない。」と不満をもらした生徒は、先生の一生懸命な姿を求めていたのかもしれませんが。自分のペースでテキストを進めながら勉強できればよいと考える生徒もいるでしょう。

私のようなムダ排除主義の人間でも、まったくムダのない授業を思い浮かべてみると、何か物足りないような気がしてきます。つまり、先生のナマの声や目線、先生と生徒との立ち位置などが、大切なことのように思えます。実はムダこそが、先生の個性を演出しているのかもしれません。では、今回はこれまで。(つづく)



クロスロード crossroad

第50回 文／吉田 良治

世界大学ランキング

毎年秋にイギリス・タイムズ誌が世界大学ランキングを発表しています。今年は9月30日に発表され、トップ10の顔触れはほぼ毎年同じ大学で占められています。(1位は昨年に引き続きアメリカのカリフォルニア工科大学、2位は昨年3位のイギリスのオックスフォード大学、3位は昨年4位のアメリカのスタンフォード大学、4位が昨年5位のイギリスのケンブリッジ大学、5位が昨年6位のアメリカのマサチューセッツ工科大学、6位が昨年2位のアメリカのハーバード大学、7位が昨年7位のアメリカのプリンストン大学、8位が昨年9位のイギリスのロンドン帝国大学、9位は昨年13位のスイスのスイス連邦工科大学チューリッヒ校、10位が昨年11位のアメリカのシカゴ大学)

日本の大学はここ数年若干順位が上下に変動があっても、大幅な変化はありませんでした。しかし今年は日本の大学が全体的に大きな変動がありました。昨年までトップ20位以内に迫っていた東京大学が、30位以内にその名前が無かったばかりか、43位まで順位を落としてしまいました。これまでアジア一位を死守してきましたが、近年猛烈に順位を上げていたシンガポール国立大学(26位)に抜かれたばかりか、中国の北京大学(42位)に次ぐアジア3位にまで順位を下げました。以下京都大学は昨年の59位から88位と何とか100位以内を死守していますが、こちらも大幅なランクダウン。昨年まで100位台だった東京工業大学(201-250位)、大阪大学(251-300位)、東北大学(201-250位)と、一気にランクを落としてしまいました。

世界大学ランキングには世界中で色々な機関が独自の指数で評価をしているので、多少順位の付け方が違いますが、常にトップグループを占めている大学の顔触れは、

ほとんどのランキングで共通しています。日本の場合タイムズ誌のような比較的教育内容を評価するランキングでは、評価が下がる傾向にあり、中国の上海交通大学のような、研究機関としての評価に重きを置くランキングでは、評価が高くなる傾向にあります。

安倍首相が世界大学ランキングで日本の10大学の大学をベスト100に入れる！という目標を掲げ、大学の国際競争力を高めるために、昨年スーパーグローバル大学創成支援プログラムを立ち上げました。これからの時代は大学は単に人材育成だけでなく、新しい産業創造を目的とした研究機関としての役割も求められます。そのためにはあらゆる分野で大学力を高めることが求められます。

大学の国際競争力を高めるために、文科省では国立大学の文系・教養系学部を廃止し、理系に重点を置く方針を示しています。日本は今少子化で学生確保に奔走する大学は、私立大学だけでなく、国立大学、特に地方の国立大学でも、大学存続という意味で大変厳しい状況に置かれています。国が毎年国立大学へ支出する補助金は年々減少傾向にありますが、それでもまだ1兆1,000億円に上ります。これをものを生み出す理系に重点配分したい、という流れと考えられます。大学も補助金の増減は大学運営に大きな影響が出るため、国からの方針にどう対応するのか、大変厳しい選択が迫られています。

しかし、本当に重要なことは、補助金というニンジンで右往左往するのではなく、大学がどうその価値・存在意義を示し取り組んでいくのかを明確にすることです。

(つづく)

吉田良治さんプロフィール

1962年生まれ。1998年にワシントン大学へアメリカンフットボールコーチ留学。2000年リーグ制覇、2001年ローズボウルに出場し、ローズボウル制覇に貢献。国家レベルのリーダーシップ教育に貢献した、ランブライト元ワシントン大学ヘッドコーチよりリーダーシップ教育を学ぶ。

全米の大学で人格形成プログラム普及に貢献した、ライス元ジョージア工科大学体育局長よりライフスキル教育を学ぶ。

吉田良治さんBlog
<http://ameblo.jp/outside-the-box/>